

ひびきあい

学校だより 9月号

令和8年8月27日

横浜市立新田小学校

自分で決めて、工夫して進む「ワクワク」を大切に

校長 近江 学

40日間の夏休みを終え、静かだった学校に子どもたちの元気な笑顔が戻ってまいりました。一回りたくましくなった子どもたちと、こうして無事に前期後半のスタートを切れたことを、心から嬉しく思います。



この夏休みには、本校を会場に、新吉田連合町内会主催の「納涼フェスティバル」が盛大に開催されました。地域の方々のご尽力により、子どもからお年寄りまで誰もが笑顔で集う温かなお祭りに、PTAの出店や特設音楽クラブの演奏を通して、私たち学校や家庭も「地域の一員」として参加させていただけたことは、大変嬉しく、心温まる経験となりました。いつも温かく地域を盛り上げ、子どもたちを支えてくださる皆様に、深く感謝申し上げます。

さて、本日（27日）の全校朝会では、夏休み前に約束した「目標への挑戦」について話をしました。私が宣言した「ランニングで合計100km」という目標は、実は走ることが苦手な私にとって大きな挑戦でした。走り始めると体がへとへとになり、膝や腰の痛みから心が折れそうになる日もありました。しかしそこで、あきらめたり無理をするのではなく、「今の自分の体はどうか？」と向き合い、走る距離を調整したり、思い切って休養したりしました。自分の状態に合わせてやり方を工夫することが、最終的に「完走」できると考えたからです。

この「目標を立て、振り返りながらやり方を工夫する」姿は、横浜市が重視する「社会情動的コンピテンシー（メタ認知・自己調整力）」そのものです。こうした力は言葉で教えるだけでは身につけません。自分で計画を立て、思い通りにいかない失敗やつらさに直面したとき、試行錯誤する中でこそ育ちます。そのためにも、学校は子どもたちが「失敗しても大丈夫」と安心できる場所でありたいと考えます。先回りして教えすぎず、子ども自身に選択や判断を「委ねる余白」を保障することが、主体的で深い学びへとつながります。

前期後半が始まります。子どもたち一人ひとりが目標と行動を振り返り、自らを成長させていく大切な時期です。私たち教職員は「チーム新田」として、子どもたちの目に見えにくい心の成長を深く見取り、温かく支えてまいります。子どもたちが失敗を恐れず「自分の生き方を創り出す」一步を踏み出せるよう、大切なパートナーである保護者や地域の皆様の温かい支援を、引き続きよろしくお願いいたします。